

	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでそれぞれのシナリオおよび材料の作成 ・リハーサル <p>⑭⑮回 家族指導とプレパレーション④ 発表 家族指導またはプレパレーションの発表 ・教員グループで入室し一人ずつ発表後、講評を行う（発表・講評：5分/人） ・講評を基に振り返りを行い、用紙に記入後提出。</p> <p>※発表予定時間10分前には実習室前に待機しておくこと</p> <p>定期試験 ペーパー試験</p>
学習到達目標	<p>①回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学演習の目的、目標が理解できる。 ・事例の疑問点に気づき、質問ができる。 <p>②③回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の問題点から、アセスメントに向けた小児看護のポイントが理解できる。 <p>ポイント：入院が患児や家族に与える影響、成育歴、発達状況、疾患の病態生理、検査データ、症状、治療、患児と家族の理解や認知発達、患児と家族のストレス、倫理的配慮、安全と事故防止等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を捉え、看護問題を考えることができる。 ・具体的な長期および短期目標の立て方が理解できる。 ・具体的な看護計画の立て方が理解できる。 <p>④⑤回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に合わせた生活空間の環境と事故防止の援助が理解できる。 ・子どものフィジカルアセスメントの方法について理解できる。 <p>⑥回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワークで行った記録を基にグループやクラスで情報共有し、修正点に気付くことができる。 ・次回演習（環境整備とフィジカルアセスメント）と事前課題について理解できる。 <p>⑦回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習にふさわしい態度について考え、身だしなみを整えることができる。 ・子どもの安全に配慮した環境整備とフィジカルアセスメントについて計画立案したものを基に演習を行い、グループで改善点を振り返ることができる。 <p>⑧回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びの意味を理解し、発達段階に合わせた遊びを調べることができる。 ・事例の看護問題と目標を挙げ、遊びの計画立案ができる。 <p>⑨回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例に合った看護問題と目標を立て、個人で家族指導またはプレパレーションの意味と方向性を考えることができる。 ・個人で大まかな家族指導またはプレパレーションの計画立案を考えることができる。 <p>⑩⑪回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで相談しながら、計画立案に沿って個人で家族指導またはプレパレーションのシナリオおよび材料の作成ができる。 <p>⑫⑬回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画立案に沿って家族指導またはプレパレーションの材料の制作を行うことができる。 ・発表のリハーサルを行い、子どもの発達に合った内容になっているかをグループのメンバーと考えることができる。 <p>⑭⑮回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己や他者の発表を通して、これまでの小児看護学での学びを自己評価し、3年後期の小児看護学実習に向けた自己の課題を説明することができる。
授業の方法	<p>【授業形態】 対面または遠隔および演習授業</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 課題によって自修後、演習でのグループ学習の中で意見を共有し、理解を深める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 ・チャットや振り返りシート、メールを利用し質問を受け付け、全員で共有する。 ・課題を行う上で必要な動画を繰り返し視聴し、質問を受け付ける。</p> <p>【その他特記事項】 ・対面授業が遠隔授業となることもあるので、適宜A-Portalからの情報に気を付けること。 ・授業中、Office365の機能を使うことがあるので、スマートフォンを持参すること。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 提出物、発表、定期試験</p> <p>【割合】 提出物：30%、発表：20%、定期試験：50%</p>
教科書・テキスト	<p>①ナーシンググラフィカ 小児看護技術・・・技術演習授業 ②ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護・・・事例講義等 ※その他：適宜プリントなどを配布します。</p>

参考書	<p>①小児看護ベストプラクティス チームで支える子どものプレパレーション 中山書店 ②根拠がわかる 小児看護技術 メヂカルフレンド社 ③今日の治療薬 南江堂 ④発達段階から見た小児看護過程＋病態関連図 医学書院 ⑤発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程 医歯薬出版 ⑥小児看護3 病気の子どもに必要な検査と値のとらえ方 2021 へるす出版 ⑦小児看護 臨時増刊号 基礎疾患のある小児のフィジカルアセスメント 2020.7 へるす出版</p> <p>*これら参考書は一例です。小児看護技術や小児看護過程や小児疾患や子どもとのコミュニケーションについて、教科書だけでなく、図書館などで様々な書籍を参考にしてください（疾患・治療については教科書だけの内容では不十分です。必ず雑誌「小児看護」の特集やより専門的な書籍を読むこと。）。</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスで次回授業内容を確認し、予習や課題を確実に行うこと
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学の看護過程と看護技術の2本立てです。基礎などで学んだ看護過程の展開、看護技術手技はできるものとして授業を進めます。不安のある場合はしっかり復習して臨んでください。 ・COVID-19の影響による変更についての情報は、A-Portalで行いますので注意してください。
オフィスアワー	<p>水曜日の授業後 *ただし出張や予定外の業務により不在であったり、対応が十分できないこともあります。できる限りアポをとるようにお願いします。変更がある場合は、授業で伝えます。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げ、説明を行う。
実務経験	<p>看護師</p>
その他	<p>3年後期からはじまる小児看護学実習と非常に関連が深い科目です。実習の履修要件とはなっていますが重要な科目であるとの認識で臨んでください。</p>